

Yagi Nursery School, Our Philosophy and Practice III 2014

認定こども園

# 八木保育園の考え方と実践3

2014年 10月 4日発行

前生者導後  
後生者訪前  
連続无窮  
願不体止

松浦書



社会福祉法人八木保育園 672-8018 兵庫県姫路市木場前中町46 079-246-5060

表紙 前生者導後 後生者訪前 連続无(無)窮 願不休止 道緯禅師の安楽集より

## 目次

<巻頭言> 保育実践を言葉にすること 神戸親和女子大学教授 戸江茂博 3

### 特集『新園舎建設と開園』

- 1 幼児組 新園舎での保育 きりん組(3・4・5歳)担任 田中綾子 3
- 2 乳児組 新園舎での保育 うさぎ組(1・2歳)担任 斉田朋子・小寺奈緒子・辻佳奈 6
- 3 八木保育園の給食と調理 調理師 南千秋・吉岡晶子 7
- 4 注文の多い保育園 設計者として (株)ディ・オー一級建築士事務所 千田英喜 9
- 5 相思相愛の事業に感謝 施工者として (株)ハマダ 開発事業部 部長 中井康博 10
- 6 透明を描く 壁画制作者として 画家 伊吹拓 11
- 7 新園舎建築と八木保育園の未来 園長 清流祐昭 12

### 幼児保育

- 8 憧れに会う異年齢保育 ぞう組(3・4・5歳)担任 吉田智華 17
- 9 3年間継続して担任する意味 ぞう組担任 山本英津子 19
- 10 毎日体操 きりん組担任 谷口春菜 21

### 乳児保育

- 11 子どもとの関わり方 にじ組(1・2歳)担任 森野美紀 22
- 12 一人ひとりが大切に育てられる乳児保育 ゆめ組(0歳児)担任 三木幸子 23
- 13 育児担当制について ひよこ組(0・1歳)担任 原田優香理 26
- 14 わらべうた コダーイ・ゾルターン氏と羽仁協子氏の教えを学んで ひよこ組 担任 久保田美幸 27

### ほか

- 15 事務職としての2年目 事務員 河知鈴那 29
- 16 八木保育園の9年間を振り返って 保護者 牛尾真由美 31
- 編集後記 園長 清流祐昭 31

## 八木保育園の考え方と実践3

### <巻頭言> 保育実践を言葉にすること

神戸親和女子大学教授 戸江茂博

このたび、「八木保育園の考え方と実践3」が上梓の運びとなりましたこと、まことに嬉しく存じます。

保育の実践を言葉にすること、これは想像以上に難しい作業です。なぜなら、保育は実践し、考え直して省察し、また実践する、いわば、実践と思いが交錯し織りなされているものだからです。生きたものだからです。生きたものを客観的に文字や文章に固定すること、これは本当は至難の業なのです。

それに八木保育園はあえて挑戦しています。ここにまとめられているものは八木保育園の保育実践の貴重な記録であり、八木保育園の保育をより良いものにしていこうとする保育者の思いの集積です。みずからの在り様を問い直すために公にしました。公にすることによって、保護者の皆様と思いを共有することができればと念じています。忌憚のないご意見、ご批評を頂戴できればと存じます。

戸江茂博（八木保育園監事）



## 特集『新園舎建設と開園』

### 1 幼児組 新園舎での保育

田中 綾子

#### 移転建て替え



12/25 新園舎工事現場

八木保育園は2014年4月に保育所型認定こども園として、旧園舎から子どもの足で15分程の所に移転しました。旧園舎は、私が短期大学を卒業してから8年働いてきた場所で、とても愛着があり、とても好きな空間でした。しかし、保育をしている中で、子ども1人あたりに、もう少し空間が広くとれたらなと感じることもありました。研修で、他園に行くと、あの園はきれいだなと思うこともありました。そんな時に、園舎建て替えの話があり、その時は「新しくなる！！」という嬉しさばかりでした。

#### 引越と空間づくり

新園舎に引っ越しし、その保育室の環境を作っていくとき、4月は以前の保育室とできるだけ同じ雰囲気になるように環境をつくろう…と思ってやってきました。大人でも、今までと全く違う知らない雰囲気

の新しい場所で過ごすとなると、落ち着かなかったり、不安になったりしますから、子どもであれば尚更だと考えたからです。家具を配置しながら、旧園舎の時と同じように落ち着く空間を考えました。

旧園舎（55㎡）に比べ、新園舎は保育室が広くなり（88㎡）、さらに以前まで室内にあった子どものカバン棚などが受け入れ室に移動しました。子どもたちは朝、その受け入れ室で保護者と一緒に支度をし、保育室に入ってきます。保育室は、子どもたちが過ごしやすい作りになりました。



### 子どもたちの遊び

新園舎には、保育室内に水道がつけました。これは、旧園舎と違うところです。設計段階で描画コーナーを設置したい場所のすぐ傍に、水道の流しを設置してもらいました。

4月の初めから、戸惑うことなく、絵の具を使って自由画を描く子どもたちの姿をたくさん目にしました。その横で、新入園児の3歳児の子どもが、5歳児の子どもに絵の具の使い方、水の交換などを教えてもらっていました。保育室の外に、水を替えに行っていた時に比べ、その様子も見える新園舎は、大人も安心して子どもに任せることが出来るのです。

### 毎身体操

旧園舎では、遊んでいたものを全て片づけてしまい、棚などを動かして保育室内をフラットな状態にしてから毎身体操をしていました。公開保育などで、他園の先生が見に来られた時にも、「毎日常棚を動かして体操するのは大変ですね」と言われることもありました。

新園舎になり、多目的室（床はクッションフロア 53㎡）が出来たことにより、とてもスムーズになりました。子どもたちは、遊んでいたものをそのまま多目的室に行くことが出来、体操をして、戻ってきってから、またその遊びに戻る事が出来るのです。「体操のためにする片づけ」がなくなったことで、子どもたちの遊びのためにとれる時間がその分長くなったように感じています。

### 排泄

トイレも保育室からドア1つ開けた隣りになり、保育室から外へ出なくてもトイレへ行けるようになりました。大人も室内に居ながら、トイレも見られるようになりました。

また、便器の数も小3つ・大3つから小4つ・大6つと多くなったので、子どもたちの待ち時間も少なくなったように感じます。

### 食事

新園舎になり調理設備も充実して、白飯も園で提供の完全給食になりました。そして、旧園舎の時には出来なかった少人数ごとの食事が可能になりました。半分の子どもが、順次食事に行き、残りの子どもたちはそのまま遊びを続けて、自分の番が来るのを待つことが出来るのです。大人も一度に全員の食事を見なくてよくなり、一人ひとりを丁寧にみる事が出来るようになり、食事の援助がしやすくなりました。

### 私の想い

私は、この八木保育園で、うさぎ組（1・2歳児）で1年、ぞう組（3・4・5歳児）で5年、きりん組（3・4・5歳児）で2年、担任をさせていただきました。そして今年度もきりん組を続いて3年目担任させてい



いただいています。私は歌うことが好きで、旧園舎の時から、わらべうたで子どもたちとたくさん遊んできました。新園舎に移転し、保育室が変わり、少なくとも環境の変化はありました。今年度は、33人クラスになり、クラスの半分以上が新入園児というクラス構成でした。しかし、保育の内容はなんの変りもありません。

少しの変化がある中で、自分の大好きなわらべうたを4月から変わらずにやっていきたい、新入園児の子どもたちにも、わらべうたを好きになってもらいたい、という想いで保育をしてきました。その想いが子どもたちにも伝わっているのか、今年度のクラスの子どもたちは、自由遊びの中で、自分たちでわらべうた遊びをはじめ、何曲も続けて遊ぶようになっていきます。新入園児の年少児が4～5人で遊び始めるこ



ともあります。そして、だれかが遊び始めると、あっという間にその人数が増えるのです。そんな光景を見るのが、私にとって、とても嬉しく幸せな時間です。

「わらべうたしよか？」と誘った時に「やったー」と言ってくれたり「先生、今日わらべうたせーへんの？」と聞きに来てくれたりする子どもたちの期待に応えられるように、これからは子どもたちとわらべうたを楽しんでいきたいと思っています。

## 今後の課題

新園舎での生活が始まって、6か月が過ぎようとしています。旧園舎で、生活してきた時間の方が長いので、去年まではこんな風にして上手くいっていたのに…と感じることがたくさんあります。それは、いままでの先輩方の工夫がたくさん組み込まれているからだと思えます。

実際、頭で思い浮かべていることをやってみると、上手くいかず、悩む毎日が続いています。このやり方の方が、いや、あのやり方の方が…と毎日、試行錯誤しています。環境構成、動線、食事面、その他にも、もっとこうしたら上手くいくのに…ということがたくさんあります。

新園舎が出来たとき、園長が「いい施設が出来た。でも、すぐに上手くいくとは思っていない。園舎を使っていきながら、いろんな工夫をして、使いやすいものにしてほしい。3年後に、使いこなせるようにしてほしい」というようなことをおっしゃられました。

保育をしていく中で、やりにくいと感じたこと、上手くいった方法など、職員同士で意見を出し合い、みんなで子どもにとっても、職員にとっても、過ごしやすく使いやすいと思える保育園にしていきたいと思っています。

3年後に向けて、みんなで試行錯誤しながら、工夫をしながら、新園舎と共に成長していきたいと思っています。



きりん組 (3・4・5歳) 担任

## 2 乳児組 新園舎での保育

斉田朋子・小寺奈緒子・辻佳奈

新園舎、うさぎぐみ（1・2歳児）での保育が始まり半年が経った。設計・建設を経て、美しい園舎が完成。真新しく広い保育室を見て、希望を持ち、子どもの為にと空間づくりに励んだのが昨日のことのようである。実際に保育室や受け入れ室、排泄室、園庭などを使用して見て、環境により子どもの遊びや育児、生活の流れ全体、大人の動きに影響があると感じる事が多くあった。

下記には、使用する中で感じた新園舎の利点を挙げている。

### 保育室

6ヶ月～おおむね2歳までの子どもには、広い空間で自由に這う・つたい歩きなどの粗大遊びが必要であり、それらが十分に確保されうるだけの保育室である。面積が広いだけでなく、収納棚があり、そこに遊びに必要な物を片付けられることも空間の確保に繋がっている。すぐ出せるところに玩具のストックをしまっておけるという利便性もある。また、園庭に面した大きい窓も室内をより開放的に感じさせる一因を担っているだろう。部屋の南側に設置された窓からは、明るい日の光が差し込み、外の風景や天気を眺めることも出来るので自然を身近に感じられる。さらに窓が大きい為、全体を広く見渡すことが出来、室内・戸外から子どもの様子を把握しやすい。保育室から園庭までが近く、そのため効率的に入退室出来ることは子どもと大人双方にとって都合が良い。



### 受入室

受入室で仕度が全て完了するので保育室は遊びの空間として保証される。以前は登園してくる子どもが気になり遊びが中断されたり、受入準備中の子どもが準備の終わる前に遊びに行ってしまう保護者が準備に手間取ってしまったりと、落ち着かなかったが、受入室があると室内の遊びが継続し集中力も途切れないのだ。保護者同士の会話が保育室まで聞こえないのも良い。



### 排泄室

効率を考えて家具、道具などが設計、配置されているので大人の動線や動きに無駄がない。その代表例としてのおむつ交換台では、大人と子どもが1対1でおむつ交換をし、子どもと協働しながら交換する事で、子どもに「させる」ではなく日々の何気ない会話を楽しみながら出来るスペシャルタイムが実現される。同時に、おむつ交換をしながらも室内がほぼ見渡せるので、他の子どもの様子も感じる事が出来る。また、おむつ交換からトイレ、手洗いまで排泄にまつわることがここで全て完了するので衛生的でもある。



### その他

うさぎ組の保育室以外にも、子どもの活動に合わせて利用出来る環境

が園内に様々ある。廊下が長く、幅も広いので雨の日には運動スペースとして活用している。テラス（園庭）も同様に面積があるので、戸外遊び中の休息スペースとなっている。園庭には実のなる木がたくさんあり、それらが育っていく様子を見たり、食べられるようになるのを期待しては実際に味わう楽しみが持てたりする。また、園庭には階段の壁画がある為、それだけで子どもたちは毎日芸術に触れていることになる。

## 保護者の意見・感想

実際に受け入れ室を使っている保護者の方からも、受け入れ室で用意がすべて終わるので良い、パスルールの棚はトイレからも使用出来るので便利であるといった声を聞いている。

旧園舎に比べ、広くなり環境設定に悩むところも多い。少しずつ改善している。これからの課題としては、室内での落ち着ける空間として、天蓋を付けること、ホワイトボードを壁に掛け、マグネット遊びが自由に出来るようにする事、また描画やシール貼りなどの製作に加えて、粘土やスタンプなどが出来るよう製作の棚を作っていくたい。

完璧にしようと躍起になっていた時もある。しかし大切なのはまず子どもだと、園内研修で学んだ。自発的に子どもが道具を選び、楽しんで遊ぶ為にはどうすればいいのか。子どもの姿を通して、これからは保育に励んで行く。

うさぎ組（1・2歳児）担任共同執筆

## 3 八木保育園の給食と調理

調理師 南千秋・吉岡晶子



本年度より新園舎となり、給食室の設備が旧園舎と比較して大幅に改善され、給食全体の形態が大きく変わりました。前年度、0歳児は分園のみの受け入れでしたが、本年度は本園でも受け入れ可能となり、離乳食も提供しています。

乳歯の生えていない0歳児が摂食できる、舌で潰せる、歯茎で咀嚼できる柔らかさで、月齢に応じた食材と大きさの具材が入ったお粥を提供しています。

また大きな変化としては、昨年までは幼児食と乳児食は同じ献立で、切り方のみ乳児向きに野菜を小さく切ったり、完成品を一口大に切ったり、硬い食材は潰したりしていましたが、1歳と2歳は今年度より八木保育園独自の乳児食献立を作成しています。

以前のように、主菜・副菜・汁物・ご飯の形態ではなく、ご飯ととろみのついた餡形状の主菜のみのワンプレート形式にすることで、食事が単純化され、乳児にとってストレスとなる摂食の技術的な困難さから解放され、食べる事とコミュニケーションに集中出来るように配慮されています。ワンプレート食に使用し





ているお皿は、縁が90度に立ち上がったスタッキング式の物で、乳児がスプーンで掬い易い形状となっているので、職員の介助が必要最低限となり、子供が自分一人で食事が出来る満足感と達成感、自信が得られるようにと考えられています。また介助が必要な低月齢の子供たちにも、咀嚼しやすい形状となっています。

3歳から5歳は姫路市の献立を基本に、園独自の献立もいくつか作成しています。前年度までは米飯を弁当箱に詰めた物を各家庭から持参していましたが、本年度より園で炊いた温かいご飯を、各クラスで提供しています。

主菜・副菜・汁物という去年度までの給食に加え、炊きたての白米を提供する事により、カレーシチューなどは汁物として提供されていた献立が、温かいカレーライス、主菜の親子煮が親子丼に、麻婆茄子が麻婆茄子丼になるなど、日によって、配膳する職員の采配によって、献立のバリエーションが変わる事もあります。

また、去年まで使用していた平皿より一回り大きい直径18センチのお皿一枚に、主菜・副菜・ご飯を、お椀に汁物を配膳するようになり、お皿・お椀・お弁当箱の形態より配膳が単純化され、幼児も食べやすい姿に移行しました。

上記が前年度から大きく変わった点です。また以前より変わらず大切にしている事は、食生活は育児の原点と考え、体を作る大切な時期に適した、健康的な給食を提供できるよう、食材や調味料にもこだわり、おやつも出来るだけ手作りの物を心掛けています。

母乳を吸う＝「飲む」という行動は、人間にとって本能的な行為ですが、離乳期に初めて発生する「食べる」という行為は、本能ではなく学習です。離乳初期食から乳児食・幼児食まで幅広い年齢層と、成長に即した給食を、適切に提供できるよう努力しています。

離乳食は素材の味のみで基本的には調味しません。乳幼児は塩分を分解する腎機能が未発達なので、初期、中期については塩・醤油等の調味料は使用せず、後期食についても塩分濃度は0.5%未満としています。2歳児前後で大人と同じ腎機能になるといわれているので、それまでの間は特に薄味を心掛けています。



子供の舌は感覚器官である味蕾の細胞数が多く、舌全体に存在し、大人の2倍から3倍、味覚に対して敏感であると言われています。それらも考慮し濃い味付けは避け、素材本来の旨みが味わえるよう、給食では砂糖は使用せず、野菜自身が持つ自然の甘みを大切にしています。

勿論、砂糖は脳にとって重要なエネルギー源なので、手作りおやつ等で、子供の成長に必要な糖分を適度に補給しています。五味の内、甘味と塩味は本能的なものですが、学習によって習得する旨み・酸味・苦味については、出汁で旨みを、酸味は幼児食で酢の物などを通して、乳児食では酢は使用せず、トマトやミカンなど、自然の酸味を摂取しています。苦味については基本的に乳幼児期に学習する必要はありません。

乳幼児期は初めて食べる食材や料理など、子供たちにとっても戸惑うことが多く、幼児食の献立は家庭的でオーソドックスな物を中心に、乳児食については食べやすい形状を重点的に考慮した献立を作成する



ように配慮しています。

また幼児においては、園庭でのプランター栽培やクッキングなど通じ、食材や調理方法を知る事で、食に対する興味や意欲に繋がるよう、保育士が日々努力しています。給食職員も保育士と協力しながら食育に努めています。

子供たちは肉料理や揚げ物など、たんぱく質や炭水化物など高カロリーな物を好む傾向が強く、甘味が薄く苦味が強い野菜は、低カロリーで消化に時間がかかる為、あまり好みません。高カロリー・高エネルギーな食事の方が生命維持においては合理的だからです。

しかし飽食の時代において、本能のままに食事をする事は、生活習慣病などの観点からも好ましいとは言えず、まして劇的に成長する乳幼児期においては、バランスの良い食事は大切です。子供たちが苦手意識を持つ事無く、スムーズに野菜が食べられるよう、創意工夫して給食を提供したいと考えています。

また栄養面だけではなく、温かいものは温かいうちに、冷たい物は冷たく、出来る限り美味しい状態で、子供たちの食事時間に合わせて、出来立ての料理を提供する事。食中毒等が無いように、加熱温度を守り、衛生に細心の注意を払って、調理業務に従事し、幼い子供たちの食事を担う責任を心に留め、安全な給食を毎日提供していく事を責務と受け止めています。

生きる力の根源である食事に、より深い興味を持ってもらえるよう、また子供たちが成長した時に、幅広い食文化を受け入れられる基礎を、各家庭と給食室で創っていきたいと思います。

## 4 注文の多い保育園 設計者として



(株)ディ・オー一級建築士事務所 千田英喜



振り返ってみると、設計を依頼されてから2年が過ぎました。この度7月の末に園舎を訪れる機会がありました。園舎に入ると子供たちの笑い声や鳴き声が聞こえてきました。「ああ、これで本当の保育園になった」と改めて実感しました。

この保育園の特徴の一つは、木造の園舎であるということです。建物の構造を何にするかは私より提案させていただきました。これまでも木造の園舎を10ヶ  
2012/10 松の実保育園 園程設計していたこともあり、何よりも子供たちに木の温もりや素材感を実感して欲しいと思ったからです。3つに分かれた切り妻の屋根、太い木の柱が強調される広がりのあるバルコニー、コンクリートのマル階段、玄関前の柱を支えるコンクリートの柱、階段の大きな窓から望む借景等色々な楽しめる要素があります。

もう一つの特徴は平面プランです。年齢別の保育室が一般的に多数を占めますが、八木保育園さんは異年齢の子供たちが一緒に生活をする保育の実践をされています。まず受け入れ室で子供たちを受け入れ、保育室で「遊ぶ」「食べる」「寝る」といった一日の生活をゾーンごとに分け自主的に行動できるようゆとりのあるお部屋となっています。また、トイレもゆとりのあるスペースを確保しています。トイレの在り方については設計時に「子供と保育士が一番触れ合うのはトイレです」という園長の言葉が物語っていると思います。



2013/12/9 仮設事務所2階で定例会議

ディ・オーとして、今までに50数園以上設計をしまいましたが、ここまで子供たちの動きにこだわったプラン構成は数少ないと感じています。今後この園舎で子供たちが楽しく過ごし、様々なものを体験し成長していってくれることを願っています。

## 5 相思相愛の事業に感謝

施工者としての思い



株式会社ハマダ 開発事業部 部長 中井康博

「相思相愛」、今回の園舎建設に携わらせていただき、強く感じた言葉でした。相思相愛とは、男女間にて使う言葉で、少し意味が違いますが園長先生、副園長先生をはじめとし、本園に関係される全ての方々の園児、園舎への愛情を強く感じるお仕事でした。

単に保育を行うというのではなく、本園の特徴である温もりと開放感のある木造構造の建屋で、「受け入れ室」を採用する等、構成上の工夫も利用し、自立心を育み、穏やかな保育を提供したいという施主様の思いを伺い、私共、施工者としては深く共感し、そのお考えを建物にしっかりと注ぎ込まなければならないと責任を新たにしました。



記念に大型積み木を贈呈されました

また、園児の皆様も御仏さまの思いをしっかりとご理解され、先生方のご指導を受入れられていると感じました。そのうえで、何事にも感謝の気持ちを忘れず、小さいながらもお経を唱えられるお姿に感動しました。

起工式の際には、園舎が新しくなる事への感謝の思いと園長先生方や工事に関係する大人たちに対する期待の念から、とてもお行儀が良く式にご参加された様にも感動し、この思いに報いなければならないと感じてなりません。

園舎の施工中においても、園長先生が毎日の様に現場にお越しになり工事風景を撮影され、ホームページに数多く掲載頂きました。他の先生方も園舎の建設に強い関心をお持ちいただき、施主様からは数々のご配慮を賜りました。

公共工事の施工が多い事もあり、私共は、この様なご高配を賜ることが少なく、大変感謝致し、より一層に園舎の建設に対する思い入れが強くなりました。



この度の八木保育園建替工事では、御仏様のお導きによって、私共も施主様とご縁を賜り、保育園の先生方や園児の皆様と、その関係者様また、設計者様からなる相思相愛の関係のなか、お仕事をさせて頂き本園での最良の保育にお手伝いをさせて頂けたことに感謝致します。

本当にありがとうございました。

平成26年9月

## 6 透明を描く

壁画製作者として 伊吹拓

絵を描くうえで様々な状況が反転することになった。まずは屋外の建物に描くということ。大きな空のもとで身体を動かす。そして垂直面に描くということ。普段は画面を水平にして絵の具を塗り重ねる。曲面に描くということ。より立体感・空間感を把握させられる。素材が油絵の具から外壁用の塗料になること。乾きが速くなる中で次の色



高原ようか写真集より



2014/3/30

を考える。

なにより一番はその絵を眺める対象がおとなからこどもに変わること。こんなにこども達に毎日絵を見てもらう展覧会はどこにもない。毎日こどもと共にある絵は、はっきりとした事柄の提示よりも、わからないままその先を



2014/3/23

覗き込んでいくかけがえのない日々の積み重なりと並走したい。

その思いから『透明』という言葉が浮かび上がってくる。たくさんの色彩を使って透明を表現する。いろんなことが目の前にやってくるが、全身全霊で乗り越えていく、こどもだけにある綺麗な力は濁ることなく透き通っているだろう。

そんなことを考えながらこちらも全身を使って壁に向かった五日間でした。

海と緑を持った大きな空から注がれる光は、何の心配もなくこの八木保育園に届き風が吹き抜けるでしょう。

そんな光と風の中で目に飛び込んでくる色が、何気なくこども達の中に染み渡っていくことを願っています。

2014.9.12 伊吹 拓



八木保育園×伊吹拓  
2014年3月31日

写真家 高原ようかさんが、壁画制作の様子や新園舎完成間際の様子を撮影した写真集を作って下さいました。

## 7 新園舎建築と八木保育園の未来

園長 清流祐昭

旧園舎を建て替える計画は10年以上前からあり、2005年に姫路市のヒヤリングで一度は建替申請しましたがその時は許可されませんでした。その同じ2005年にハンガリー国立マイバ保育園の実地研修に参加し、合理的な保育施設を目の当たりにして、いつか自分が園舎を建てる時が来たらこのような園舎にしたいものだと漠然と考えていました。

そして一昨年2012年の5月、地元八木校区の方々から旧八木幼稚園園舎を使って幼児教育施設を運営できないかという打診がありました。すでにいろいろな方のご意見を聞きながら、八木校区における幼児教育施設の必要性を身に染みて感じていましたので、八木保育園を新しい制度の「認定こども園」として新たな土地に建設することを理事会で決定しました。木場地区の中で土地を探すと、ちょうど使われなくなっている冷凍倉庫の土地が売りに出ていることが分かり、立地条件も良かったので購入することにしました。土地の所有者は正福寺総代の鎌田家に繋がる宇部産業(株)で、こんな形でご縁があったことを喜びました。

7月3日にと土地売買予約契約書を交わし、本格的に事業はスタートしました。まず、設計者を選定するにあたり、施主としての建築コンセプトをまとめて、それを公開して設計業者を募りました。

### 設計コンペに出した課題「大切にしたいこと」

- ・南と東は緑地帯です。この緑を活用したい。
- ・北は民家に接しています。騒音や採光には極力配慮したい。
- ・敷地への出入り口は、安全面を考えて東側緑地帯に設ける。・大型荷物や工事車両の出入り可能な通用口を南道路側に設置する。
- ・事務室と職員室は同一でよいが、窓から正門と園庭がよく見える位置にする。
- ・日本伝統建築の良さを残したもの ・太陽光発電などは用いない。
- ・軒を深くすることで夏涼しく、冬は暖かい環境を実現する。電力によるエアコンも併用する。
- ・換気は高所換気窓などを利用した自然換気と、天井扇や換気扇を利用した強制換気を併用する。
- ・2階建てにする場合、一階を幼児(3～5歳児)、二階を乳児(0～2歳児)にしたい。※
- ・保育室において食事・睡眠も行われる。 ※ランチルームやお昼寝ルームは設けない。
- ・保育室に隣接してロッカー室(受け入れ室)を設ける
- ・一階の幼児室からは直接園庭に出られるようにする。
- ・二階の乳児室には外にベランダを設けて、直接出られるようにする。
- ・0歳児室の外には甸甸が可能な屋根付きベランダを設置する。
- ・保育室の形状は、必ずしも同一でなくても良い。 ・トイレや調理室はすべて乾式とする。
- ・床はフローリングが基本であるが、安全面や騒音を考慮したクッション性のあるものを使用する。
- ・階段は乳児(4か月から3歳)がハイハイをして上り下りすることを前提に設計する。※
- ・廊下からはあまり保育室が見通せないようにする。



- ・玩具や図書の収納は十分にできるように、収納棚を設置する。
- ・大型絵本にも対応できる書棚を作る。絵本のサイズには注意する。
- ・土の地面を通らずに保育室から直接プールに入れるように、プール設置場所も検討しておく。
- ・園児 130 人と職員 20 人をまかなえる調理室を設置し、二階搬送のリフトを設置する。
- ・調理室には車両の通行できる食品搬入出通用門を設置する。
- ・調理の様子が、廊下や園庭から眺められるような工夫をする。
- ・職員休憩室とロッカールームを設置する。

2012/07/05 現在

その後、1階を低年齢児乳児室、2階を345歳児室に変更しました。そのため波線部のプランのみが変わっています。

7月末に設計者が(株)ディ・オー一級建築士事務所に決まり、8月17日に姫路市との**整備計画ヒアリング**で**設計図面や資金計画**の資料提出を提出して、市からのゴーサインを待ちました。

夏から秋にかけて設計担当者の千田さんと、宝塚のやまぼうし保育園をはじめ千葉県の実保育園やこすずめ保育園にまで同行してもらい、基本プランをさらに詳細に練っていきました。

年末も押し詰まった12月21日に法人審査会に提出する書類の提出要請の電話が市の担当者からあり、年末年始の休みを返上して書類との格闘を続け、新年1月4日朝に一揃いの書類提出し、さらに担当者の指摘に沿った訂正をした最終書類17部を7日に提出しました。翌8日には**法人審査会が開かれ**、9日に審査が通り正式に建て替え事業が認可されたと連絡を受け取りました。



地元説明会

早速、1月24日に地元説明会を開催しながら、設計内容は手を入れて変更を重ね、ほぼ現状に近い図面ができたのは4月17日でした。

6月3日から11日にかけて既存冷凍庫施設の取り壊し工事、14日に姫路市から建て替え事業が国の審査をとおり正式に補助金が決定した内示の電話がありました。それを受けて17日、土地の購入契約を締結、6月19日内示を正式に書面で受け取りました。

設計図面はさらに細部を修正し、7月8日の図面を決定稿として建築業者の入札になりました。8月21日に公募型指名入札を公告し、18日に応募5社による入札でしたが、どの会社の札も予定価格1億9000万円を上回り、入札は不調に終わり、再入札となりました。設計を変更し再入札を10月22日に実施し、ようやく姫路市網干区に本社がある(株)ハマダに決定しました。早速24日に工事説明会を開き、28日起工式を行い翌日から工事が始まりました。

## 私たちの保育を実現するための、設計と建築ポイント

### 夏は涼しく、冬は暖かい基本構造の木造二階建て

やはり建てるなら木造が良いというのが、理事会の一致した意見でした。しかし、こんな大きな建物で耐震耐火構造の木造建築が本当に可能なのかという心配がありました。軸組木造構造で準耐火2階建という特殊構造



起工式

の工法を(株)ディ・オーはいくつも手がけておられたました。阪神淡路大震災では、倒壊被害がほとんど無くて、一躍有名になった工法だそうです。

たっぷりと庇が南側に出る、瓦葺きの大きな屋根をまずお願いしました。これが日本の気候風土に合ったものだと判断したからです。瓦は明るい色の洋瓦を選びました。

瓦葺きの大きな屋根で建物のイメージはほぼ出来上がっていると思います。

深い庇は、採光の上でやや不利になるので、それを補うために2階の保育室には開閉可能なトップライト（天井採光窓）が一つづつ付けてあり、部屋のアクセントの一つにもなっています。

### 人の動線は可能な限りシンプルに

門から入った親子が、自分のロッカーのある受け入れ室まで、無駄なく最短コースで移動できるように、動線を考えました。東西に延びるゆったりした廊下は、掲示や展示の場所にも利用できます。保育室に隣接するトイレと受け入れ室の動線もよく考え、子ども達の行動に即した器具の配置を考えました。

調理室は1階西端にして0歳乳児室と隣接させ、離乳食を境の窓越しに受け渡しできるようにし、2階への搬出はワゴンごと載せられる専用リフト（ダムウェーター）を設置しました。



### 材料は好いものにしたらきりが無い

子どもが活動する保育室の床材はすべて無垢のロシア産桜材を奮発しましたが、その他は割り切って最も安価で工期も短くて済む長尺ビニールシート貼りにしました。ただし、2階のクマの部屋（多目的室）のみは、運動をする部屋という前提で、4.2 m厚のクッションフロアにしています。この床は膝を勢いよくついてもほとんど痛くないという、安全性の高いものです。

腰板は張らずに、床から1メートルの位置に幅 10 cmの中木を貼りました。これは単にデザインではなく、ビスやヒートンを自由に打てるようにしてあるのです。

### 12歳児排泄室（トイレ）はノウハウの集積

私は 2005 年 5 月にハンガリーの国立マイバ保育園実地研修に参加しました。そのとき目にしたのが乳児トイレです。いつか自分が保育園を建て替えるときは、こんなトイレを作ろうと思っていました。基本レイアウトはマイバ保育園そっくりで、日本人の体格や生活様式に合わせてコンパクトにしていますので、むしろ使いやすいのではないかと思います。オムツ交換台に立つと保育室がほぼ視線に入り、オムツ



交換に必要なものは手の届くところにすべて用意されています。オムツ交換台は、千葉県流山市の松の実保育園で設計され使っておられるものを参考に特注したものです。この立式のオムツ交換台は、保育士の身体的負担をできるだけ

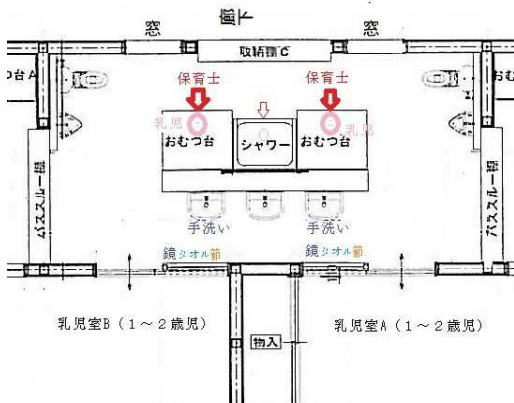
軽くして、しかも子どもとのコミュニケーションが充分に取れるように考えられています。オムツ交換が終わった子どもが手を洗う流しも、高さや蛇口の位置、鏡の大きさや位置を非常に細かく計算して設計施工しています。普通の職人さんにとっては常識では理解できない位置ですから、こちらが責任を持って指示する必要がありました。流しや蛇口は汎用品ですからむしろ値段は安いものです。

着替えの入った個人別の棚は、ちょうど受け入れ室とトイレの境になる位置にあり、扉を開けるとつながった状態になります。朝、お母さんが新しい着替えを棚の中の籠に入れておくと、それを保育士が排泄室の側から取り出せるのです。

### すべての保育室に受け入れ室

廊下から扉を開けると、保育室の手前に、個人のロッカーや棚・鞆用ハンガーが用意された小ぶりの部屋がまずあります。

保育室には個人の生活物を持ち込まないことで、大人も子どもも動作と動線が整理されて、生活や遊び・学びがスムーズに進むように考えています。また、大きな部屋では心理的にストレスを感じるような児童には、この部屋で一時的に静かに過ごして、情緒の安定を取り戻すということにも使われます。



幼児の受け入れ室は、南側に隣接してトイレがあり、排泄後や外遊びからの着替えも保育室を通らなくても良いように設計しました。

### 幼児室は保育内容を具体化する機能を備えて

幼児保育室のプランは担任保育士の意見を特に参考にしました。部屋は大きく「製作」「役割遊び」「構造あそび」「机上遊び」という4つのエリアに分かれます。それを太い丸柱を建てることで空間的に分けました。製作エリアには絵の具が使いやすいように水道の流しを室内に取り付け、役割遊びや構造遊びエリアに隣接して収納戸棚をたっぷりとつくりました。また壁面には展示が容易なようにマグネットクロスを貼っています。丸柱から四方に伸びる太い梁はこれからいろいろに活用されるでしょう。

### 園庭の西側は乳児専用のエリアに

外階段の西側は乳児専用園庭にしました。幼児達の激しい遊びと交錯する心配もなく、体格や発達段階に適した遊具を設置します。隣の給食室には低い専用小窓があり調理風景を覗きこめるようになっています。

### 発展性のある構造

- 1 88㎡の幼児保育室の中心を少し外れた位置に丸柱を立て、そこから東西に梁を延ばしました。どちらも構造材としては設計されていません。
- 2 2階テラスは南側に3m幅があります。そのうち庇は2mまで伸びていますので、普通の雨であれば窓サッシや窓のすぐ下に置いている靴箱は全く濡れません。3m幅あるので、そこにプランターや飼育観察ケースや水槽を置くことも可能です。室内では絵の具汚れが気になる活動もここでなら、楽にできます。
- 3 乳児保育室の天井には巾木の棧を東西方向に1mおきに付けてもらいました。ロープをつけてぶら下がってもびくともしない強度のものです。
- 4 十分な幅のある東西に延びる廊下は、乳児にとっては雨の日の運動場代わりにもあり、幼児の作品展示場所としても機能します。



工事中の丸柱と化粧梁



### 最後まで悩んだ外階段は美術作品に

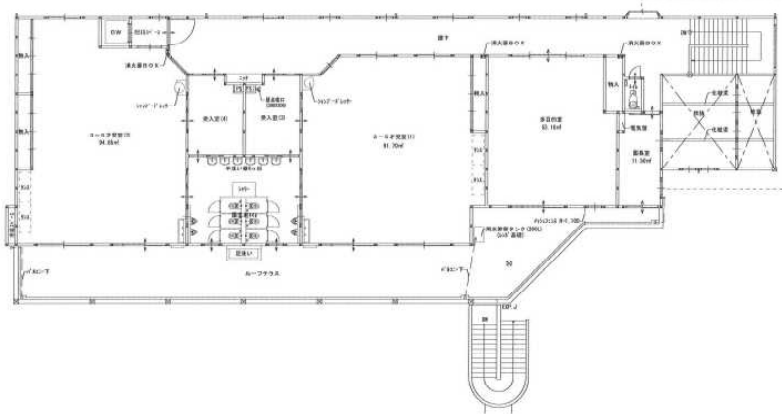
園舎は木造ですが、外階段のみは鉄筋コンクリート構造です。建築段階では、木造建築にコンクリートの大きな階段がうまく調和してくれるかどうか心配でした。非常用の避難路でもあるこの階段は、法的な規制がかかるのでどうしてもこのような大ぶりなものにならざるを得ませんでした。塗装の色を決めかねているときに浮かんだのは、親戚の若い抽象画家伊吹拓さんで、相談すると「分かりました、階段が透明になるように描いてみます」と引き受けてくれました。そしてできあがったのがこの壁画です。正面玄関のコンクリート丸柱と一体になった壁画は、美術画廊の専門家も注目する美術作品になりました。

### 園舎も生まれたばかりの赤ちゃんです みなさんで立派に育てて下さい

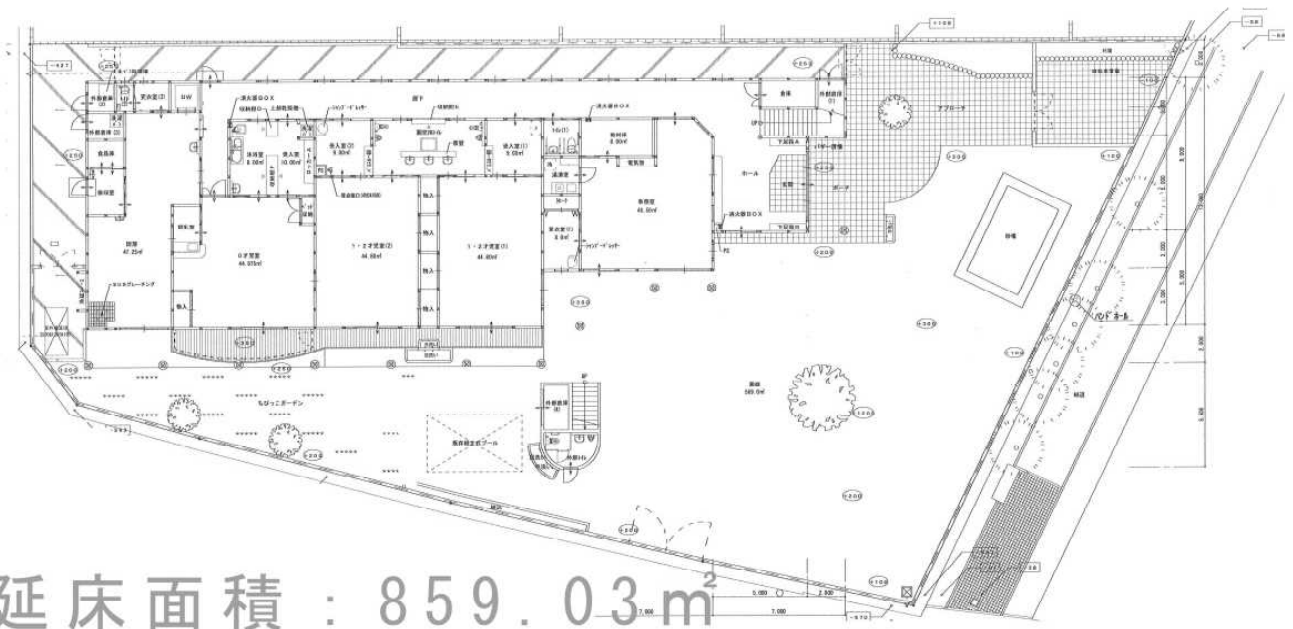
みんなの願い働きが結晶したこの保育園を、これからしっかりと育てていきたいと思っています。



壁画製作前



## 竣工図



延床面積 : 859.03m<sup>2</sup>

<記> 木造 地上2階 延床面積 : 859.03 m<sup>2</sup> 完成 : 2014年3月



## 8 憧れに出会う異年齢保育

吉田 智華

八木保育園の幼児クラスは、3・4・5歳児の異年齢保育です。子ども達は、幼児クラスに入ると卒園するまで同じクラスで生活します。(継続的異年齢保育)そこに異年齢保育で育つ子ども達の姿が見られます。

先日、年長まで保育園に通っていた小学1・2年生が1日だけ卒園クラスで在園児と一緒に過ごす“卒園児の集い、”がありました。

子ども達は、小学生のお兄ちゃん・お姉ちゃんが保育室に入ってくるのを見ると、目を輝かせ小学生のところへ駆け寄りました。久しぶりに会う友だちの顔をやや離れたところから見ている子どももいました。



子ども達は、同じ部屋で遊ぶなかで、お兄ちゃん達がすること一つひとつに“何をしてくれるんだろう？”という期待の眼差しを送りながら見ていました。

その中で私は、保育園児→小学生だけでなく、1年生女兒A児→2年生の女兒B児に向けられている眼差しに気付きました。

B児が椅子に座り、昆虫図鑑を見ながら蝶を描く姿をA児は少し離れたところから興味深そうに見ていました。しばらくしてからA児は、私の背中にくっついて「Bちゃん、何しとるんやろな？」と尋ねてきました。A児の表情を見ると、B児が何をしているか気になって仕方がない、けど恥ずかしくてB児のところへ行けない、もどかしく思う気持ちが伺えました。

このA児の姿を見た時、私はA児が年中児だった時のことを思い出しました。A児が年中児の時、B児は年長児でした。B児は、在園していた頃から工作・描画がとても得意でした。そんなB児にA児は、憧れを抱いていたのです。

私は、A児に「何をしているか一緒に見に行ってみよっか。」と誘うと、「うん！」とわくわくした表情を見せB児のところへ行きました。A児は、B児を前に恥ずかしかったようで、私の膝に座りB児が描く蝶の絵を覗きこんで見ていました。B児もそれに気付くと恥ずかしそうに微笑み、少し手元を隠しましたが、再び描き始めました。A児は、私の膝に座ったままB児のしていることを全て吸収するかのようになり、黙ってB児の姿を見ていました。私が、他児に呼ばれたのでそこを離れると、A児も一緒にそこを離れましたが、私の中で一つ確信したことがありました。

それは、A児のB児への憧れがまだ続いているということでした。その眼差しは、2年前と変わっていませんでした。A児とB児は、校区が異なり、違う小学校に通っています。A児とB児が卒園してから会ったのは、今年の“卒園児の集い、”の時以来だろうと思います。後でA児の母親から聞くに、B児の名前は、今でも話の中で出てくることがあるようです。

“憧れ、”これは、異年齢保育の中では珍しいことではありません。「〇〇くんみたいになりたい。」と子ども自身から自然に出てくる感情です。3・4・5歳のそれぞれの成長段階の子どもたちが一緒に生活す



る中で、自分よりはるかに何でも出来る年上のお兄ちゃん・お姉ちゃんは、とても魅力的な存在だと思います。自分の目標となる憧れの存在がいること、目標となるモデルが常に近くにいることで子どもたちは、見て学ぶことができます。子ども自身の「なりたい像」があることは、その子どもの成長の大きな助けになると思います。

そして、なぜ憧れるか？「〇〇ちゃんみたいになりたい！だって、〇〇が上手やもん。」子ども達にもそれぞれ理由があります。子ども達から出てくる言葉に、よく見ているな…と感心させられることもあります。きっと、ずっと同じクラスで生活しているからこそ見えてくる一人ひとりの人格がそこにあると思います。工作が上手だから？走るのが速いから？優しくしてくれたから？お兄ちゃん・お姉ちゃんのどこに憧れているのか、というところも興味深いものです。その理由からその子どもの目指すところを大人も知ることができ、そこをサポートしていくことが出来ます。クラスで一番小さい年少児の「〇〇ねえちゃんが好き！」という言葉、そんなところから憧れに思う気持ちが芽生えているのかもしれませんが。

そんな憧れの人との出会いが、異年齢保育にはあるように思います。A児とB児の姿を見て、幼児期の出会いとその経験や感情、記憶がその後もその子どもを成長させてくれる存在であることに気付きました。卒園児の集いでは、在園児・卒園児だけでなく、卒園した小学生にとっても憧れの人に会える特別な日だったのです。

今年度も32名の子ども達がぞうぐみで生活しています。園では口にはしない子も、家で「〇〇くんって、かっこいいねん！」と話をする、ということも保護者から聞きます。子ども達は、異年齢で過ごす中でいろいろな機会に遭遇します。年上のお兄ちゃん・お姉ちゃんに手を繋いで



卒園児が製作した蝶

もらったり、わからないことを教えてもらったり、できないことを助けてもらったり、そんなことが日常に自然とある環境です。互いにどれほどの影響を与えているのでしょうか。一人ひとりの秘めている力・魅力をさらに輝かせるのは、子ども同士かもしれませんが、今、担任をしている子ども達も憧れのお兄ちゃんがいる子、憧れの眼差しでお姉ちゃんを見ている子、いろんな姿があります。その子ども達が“どんな年長さんになるのかな”と思うとこれからの育ちが楽しみです。異年齢の友だちとの学びは、きっと大人が教えることより吸収が早く、自分自身の力になることと思います。子ども達の持っている力は、計り知れません。可能性で溢れています。お兄ちゃん・お姉ちゃんの良いこと・悪いことも全て真似る子ども達。真似るところから年上の友だちを見る眼差しがあり、それがいつしか憧れへと変わっていくのかもしれませんが。

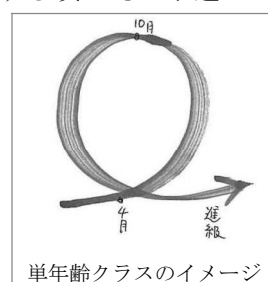
## 9 3年間継続して担任する意味 山本英津子



私は、他の保育園で8年間、年齢別保育の担任をした経験があります。毎年クラス替えもありました。毎年1年で担任が交代した場合、大人は1年後、3月までの目標を立てて保育をします。1年の間、目標まで猛スピードで成長する子もいればのんびりな子もいて成長のペースはそれぞれです。

私は、その中で毎年感じるがありました。それは、1学期の間にひとつのクラスとして軌道に乗り始め、2学期頃に子ども達とようやく信頼関係が築けてきたと感じ、3学期になりひとりひとりの子どものことがより理解できるようになってきたと実感する頃にその子達とクラスが離れてしまうのです。引き続き担任できるとは限らないということです。

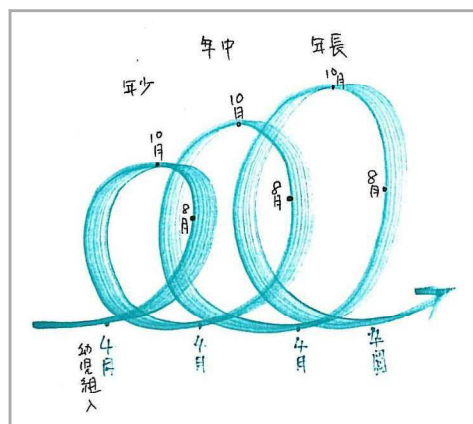
新しい年度になり、去年担任していた子ども達は気にはなるけど、今のクラスの子も達が大切だしその子達と信頼関係を築くことが先決になってきます。その園では残念ながら去年の子も達は現在の担任に任せるしかありませんでした。



私は、12年前、縁あって八木保育園に就職し、きりん組の担任になりました。

異年齢保育はこの園にきて初めての経験でした。同じ保育と言えども分からないことばかりで毎日が勉強でした。

幼児クラスでは、クラスも担任も変わらない継続的異年齢保育を行っています。子ども達にとっては部屋が変わらないので、新年度になっても大きな変化がなく、安心して過ごせるメリットがあります。物の場所、生活の動線もほぼ変わらないので、進級した際、大きくなった喜びと同時に新しい友達に教えることができます。新しい友達よりよく知っているという自信をもつことができます。そしてなにより、同じメンバーで過ごすので、兄弟のような関係の関わりが見られます。



螺旋型成長のイメージ 清流祐昭 2007

大人にとっては、1年間担任をさせてもらっただけでも愛情がわくのですが、それが3年ならもっとです。毎年、年少ではいつくる子ども達を見ながら、どんな年長になるのだろう？と想像します。それは、我が子を見ながら大きくなったらどんな子になるのだろう？この子はどんな大人になるのだろう？と考える親のような心境に似ています。

いよいよ3年目。待ちに待った年長になり、ひとりひとりが今まで培ってきた力を、個性豊かに発揮してくれている姿をすぐそばで見られることがどれだけ幸せなことか。

子どもはらせん状の弧を描いて成長していきます。すごく伸びている時もあれば停滞しているときもも

もちろんあります。猛スピードで成長する子も停滞している時はあるはずですが。でも目標が1年間という短い間であれば、子どもも無理をしている可能性があるのです。しかし、継続して保育することが可能ならば、3月までという短い期間ではなく、3年間かけての育ちの目標を立てながら考えて保育をすすめていくことができます。

継続して保育をしていると、1年担任しただけでは分かりにくいらせん状の成長の様子もよく理解することができます。今、伸びようとしているかもしれない。と感じる時、それは子どもの様子から何うことができます。例えば、表情がいきいきとし、大人や友達にもいつもより、積極的に話している。また、大人からの課題に興味を示し、取り組むことが多くなり、友達にも優しくする場面が増えている。それは何故か、あらゆる情報交換を担任同士で行います。きっかけとなった出来事は何だろう？遊びの中で自分のアイデアが友達に認められたから？それとも手伝いをした時に感謝されたから？あるいは参加した課業の中で発言できたことが喜びや自信となっているから？すると、子どもの姿がさらに見えてきます。そして、この伸びようとしている時はチャンスです。今までその子自身が苦手としていたこと、避けていたことを挑戦させてみよう。ひょっとしたら出来るかもしれないと考えます。

では逆に今、少し停滞しているのかもしれない。というのはどういう時でしょうか？体調が悪い訳ではないが表情に元気がない。心の底から湧き起こるような喜びはあまり見られず、その場その場の細切れの笑いでしかない時。遊びを見つけることが出来ない日々が長く続く。友達からの関わりに対して反抗的、悲観的になりやすい。こういう姿が見られた時にもまた、あらゆる情報を収集します。どんなことで困っているのか？遊びたいとおもえるような玩具がないのだろうか？友達と何かあったのだろうか？それとも、家で何かあったのだろうか？睡眠時間が足りない？習い事を始めた、ゲームなどを買ってもらったなどの環境の変化があったのだろうか？と。そのうえで、その子にとって、今必要な援助は何であろう、と考えます。現在のありのままの姿を受け止め、様子を見守っていこう。その子にとって、今必要な援助は何であろう？スキンシップをとってみよう。いつも大人が見ているんだということを感じてくれるようにしましょう。食事を側で食べてみよう。友達との接点を大人も仲立ちをしながら設けてみよう。つまり、見守るとは、ただ様子を観察するだけでなく、必要な援助や働きかけをしながらまた伸びて来る時期を待つということなのだと思います。



いずれも、いい所は家の人にも伝え、両方から褒めもっと自信がつくように。もし今後、停滞する時期に入ったとしても、みんなに褒められ、認められたという自信が心の糧になるでしょう。困っている事があるのなら、園だけでなく家でもそうなのか。家庭での様子も伺い、相談しながら両方から支えていきます。子どもの力を信じ、待っていればこの停滞している時期をのりこえ、またぐんと伸びる時期がやってくるのです。

### 螺旋型成長 「螺旋型カリキュラム」

ジェローム・ブルーナー（アメリカの心理学者 1957年スプートニックショック後会議の中心）

異年齢混合保育3年間のなかで、3度同じ季節が巡り、3度同じような経験をする。10月の運動会ならば、同じクラスの中で年少の時・年中の時・年長の時と3度違った立場を経験する。1年前・2年前の記憶が年を追うごとに生かされてくる。



私はクラスの子ども達の親ではありません。でも、親と同じような気持ちの子ども達は味わわせてくれます。叱ることもあります。笑いすぎてお腹が痛くなることもあります。今日1日の中での子どもとの関わりを振り返り、家に帰ってからずっと考えていることもあります。子ども達の成長を感じた時、嬉しくて涙を流すこともあります。喜怒哀楽、全ての感情を全身でぶつけてくる子ども達に、私も全ての感情をぶつけて保育したいと思っています。

私は、子供が3人います。長女は他園でお世話になりましたが、長男、次男は八木保育園に通っています。保育士だからといって、我が子の子育ては完璧か。いえ、お母さん達と同じように悩みや不安がたくさんあります。たくさんのお母さん達と一緒に働く職員から本当にたくさんを学んでいます。我が子も含め、今、まぶしいくらいに成長しようとしている子ども達に負けないよう、一緒にそばで過ごせる幸せに感謝しながら、私もこれから保育士として、母として、社会人として成長できるよう勉強していきたいと思っています。

## 10 毎日体操

谷口春菜

八木保育園の幼児クラスでは毎日体操というものを行っています。その名の通り毎日10分から20分程度行う体操です。

### 新園舎になり改善されたところ

以前は保育室で毎日体操をしていたため、体操のために片付けをし、家具を移動させスペースを作っていました。新園舎には体操の部屋が出来たため、片付けと家具移動の時間がなくなり、子供たちにとって大切なあそびの時間が確保されました。朝から続いていたあそびをそのままの状態に残し、体操が終わるとまたあそびに戻ることができるようになりました。



### 体操の部屋の特徴

床はクッション性で、裸足で飛び跳ねた時の衝撃や、怪我を軽減します。1クラスで体操するには程よい広さで、大きな窓からは日が差し込み、子ども一人一人の姿や表情がよく見えます。子どもたちはのびのびと体操を楽しんでいます。



毎日体操は基礎運動能力を育てるもので、鉄棒や跳び箱ができるようになったり、まして体操選手を育てるためにするものではありません。

### では、どのようなねらいがあるのでしょうか

毎日体操をするにあたって、職員は子どもたちが体操を完璧にできることを目標にしているわけではありません。1日の生活の中で、ここを伸ばしてあげたいなと思うところを体操に取り入れ、今どこまで育っているのかを確認します。

例えば・・・

## 食事の姿勢

肘について食べる、背中が曲がっている、お尻が椅子からずり落ちる・・・「どうしてそんなにお行儀が悪いの!？」と叱られている子がいるかもしれません。しかしそれは基礎運動能力である、体幹が十分に



発達していないからかもしれません。体幹が育っていないと、すぐに疲れてしまうため体を支えることが難しくなり、正しい姿勢を保てなくなるのです。

### 集中力にも関係しています

就学すれば机に向かっての授業がはじまります。自分の体をしっかり支え、疲れて集中が途切れないように基礎運動能力を伸ばす必要があるのです。

生活の中には、他にも基礎運動能力を必要とする動きが多く見られます。職員は日々の生活の中で、子ども達の動きをよく観察し、育って欲しい所をねらいとし、体操プログラムを組み立てます。それは、簡単なことではないのですが、年少の頃出来なかったことが、年中・年長になり、出来るようになった喜びは大きいです。子ども自身にとっても、この時期の運動発達は達成感が大きく、自信にも繋がりやすいです。その自信は体操だけでなく、他の分野にも広がっていくのです。基礎運動能力は全ての分野の土台であると考えられます。体育の講師を呼べば、跳び箱や鉄棒が簡単に出来るようになるでしょう。しかし、日々の生活を側で見ている私達は一人ひとりの発達を様々な方向から観察・把握し、伸ばしていくことが出来るのです。そのために専門の研修で学び、子ども達と正面から向き合っていきたいです。



乳児保育

## 11 子どもとの関わり方

にじ組(12歳児)担任 森野美紀

私は、昨年度初めて2歳児を担当した。

0歳児の担当が多かったこともあり、自分では解っているつもりではあるが、口を出しすぎていたり、手伝いすぎていることの指摘を度々された。

2歳児という年齢に戸惑い、自分に余裕が持てず、どう接したらいいのか分からず自信を失いかけることもあった。そしてあっという間に1年が過ぎ、反省することばかりである。

今年度、また2歳児を担当することになり、自分自身にも少し余裕が見え、時には客観的に自分の姿を見られるようにもなった。子どもたちへの言葉の掛け方をこの1年の課題として保育している。

昨年は気持ちに余裕がなく、どうしても肯定的な言葉より否定的な言葉が出てしまっていた。

「～したらだめ!」「～しないで!」と言うことが多かったと思う。

部屋を走っている子どもには「お部屋は歩こうね」、机に上っている子には「ごはんを食べる所だから、降りてね。こっちなら上っていいよ」などの、して欲しい行動を言葉に出して伝えていく。

子どもとの信頼関係をしっかり築き、ひとりひとりの発達段階を理解していくと、生活面や遊びにおいて伝える言葉や援助もそれぞれ違ってくるのです。

自分で出来ること・少しの援助で出来ること・しっかり援助が必要なこと。それを見極めながら、必要な援助や言葉をかける。

出来た時には一緒に喜び、褒める。子どもたちは認めてくれたことに喜びまたやろうと思う。それを見ていた子どもは、自分もやってみようという気持ちになる。

この毎日の積み重ねで、子どもたちは自信となり、表情や行動となって自立に向かっていく。

トラブルの時には、相手にどう伝えればよいかを大人が言葉にして見せていくことで、子どもたちはその対処の仕方を覚えていく。そして、その対処の仕方を子ども同士で出来るようになる。

今年のにじぐみ2歳児はこつこつと一人遊びに集中したり、友達と一緒に構造物を造ることが多い。子どもたちが自分たちの経験からいろいろと考え知恵を出しながら遊んでいる時は、じっと見守りながら、どう遊びを広げていくか考えてみる。どうしてもうまくいなくて困っている時には、「これを使ってみたらどうだろ?」と違う道具を渡してみたり、「こうしてみたらいいんじゃないかな?」とやってみせるなど、ほんのすこしアドバイスすることでまた笑顔になり、「してみよか〜」「出来たやん!」などの会話が聞こえさらにいいものが出来上がっていく。

こういう姿を見ることによって私にとっても喜びになり、自信につながるのだと実感するようになった。

毎日何回ものやりとりの中で、子どもたちはどんどん言葉を吸収し、使うようになっている。大人が子どもたちにかける言葉にどれだけ影響があるのか理解した今、私は日々のいろんな場面で『子どもたちに使ってほしい言葉』を話すように心がけている。言葉と同様にふるまいにおいても。

もう一度、「子どもの人格を尊重する」という保育の基本に戻り、子どもとしっかり対話しながら毎日を大事に過ごして行こうと思っています。

## 12 一人ひとりが大切に育てられる乳児保育

三木幸子 ゆめぐみ(0歳児)担任

私は0歳児(ゆめぐみ)の担任をしています。これまでも、0~2歳児(乳児)を担当してきました。乳児の保育で大切にしていることは、一人ひとりの子どもの家庭生活や育ち、その時々のお気持ちに配慮して、遊びや生活をつくっていくということです。

乳児期の子どもたちに一番大切なこと、それは人間の人格を発達させる基盤が、「特定の大人(母、父、など)との信頼関係」をどう結ぶかにあるということです。

子どもが集団保育を必要としているのではなく、社会情勢の変化、世代の価値観の違いにより家庭の状況が多様になり、様々な理由で乳児期に子どもを保育園に預ける必要がある家庭が増え、それに応え

で乳児期の子どもを集団の枠の中で保育しているのが「乳児保育」です。

保育園は家庭に代わって子どもを育てるというだけではなく、「子どもと家庭・家族の結びつき」を支え、受け入れ、尊重し、家庭と協同して一人の子どもの成長を助けていくことが役割です。保育士はこの乳児期（人生最初の3年間）に、家庭と一緒にあって、信頼感の確立、情緒的生活の基礎を形成する役割を担っています。それは、子どもは人から優しく・大切にしてもらった経験を重ねることで、いつしか「自分以外にも大切な存在がいるんだ」ということに気づき、周りの人に優しくできるようになり、自分を大切にできるようになる…ということだと私は思っています。

この重大な役割を果たすため、私はハンガリーのマイバ保育園が「国連こどもの権利宣言の理念を取り入れて作り上げた『乳児保育の基本原則』によって、子どもの人権を尊重した保育ができると考え、保育の方法の助けとして参考にしています。この原則は、その時代・情勢に合うよう、そしてなにより子どもにとって良い方法を常に考えて作られていくものであり、その都度変わっていきます。

参考文献『乳児保育の実際』～子どもの人権と向き合って～ コダーイ芸術教育研究所/著  
**<基本原則>**…現在は7つの原則

#### **I、家庭での教育を優先して尊重する原則**

その子どもがどのような家庭で育ってきたのか、どのような生活リズムで過ごしてきたのかを考慮して、園でも家庭と変わらない生活を心がける。

→なかよし保育中に子どもに関するたくさんの情報を得て、園での日課を組む。必要であれば家庭訪問をする。そして、家庭で不足していることは園で補っていくようにする。

#### **II、子どもの人格を尊重する原則**

子どもの記録を細かく取ることによって子どもの育ちを知る。

子どもの人権と基本的自由の権利の尊重の上に援助する。

→育児行為など、一つ一つの行為に言葉をそえて、確認する。

無理やりしない。○例④「抱っこするよ」と子どもの前に両手を差出し、子どもの手が出るのを待って抱き上げる。

#### **III、教育と育児の一致の原則**

育児（食事、排泄、睡眠）は教育の一部である。教育は育児に限られたものではなく、遊びの中にたくさんの学びがある。

→育児行為に一つ一つ言葉を添えて行っていくと、その言葉と行為が一致して、子どもがその行為に応じてくれるようになる。（協働）

#### **IV、個人的接し方の原則**

子どもの体像（年齢、体格、性別など）だけを見るのではなく、子ども一人一人の育ちをみて判断する。

保育者は子どもが今どんな気持ちなのか、何に興味を持ち、どうしようとしているのかを観察し、個々の発達を助けます。



→「育児担当制」…育児（食事、排泄、睡眠）は毎日すべて同じ保育士が同じ手順で援助します。保育士は、子ども一人一人に責任を持ち、発達状況に応じて個々にあった関わりをします。

## V、安定と継続の原則

### ① なかよし保育（慣らし保育）

ここでいう慣らしとは、子どもと保護者が保育園の環境や人（保育士やほかの園児）に慣れること、保育士とほかの園児が子どもと保護者に慣れる（なかよくなる）ということ。

時間をかけて、慎重に行う。（約2週間）

**初日**…親と一緒に部屋を見る。先生にあいさつ程度。

少しずつ過ごす時間を増やす。

この間に、母親は担当保育士に子どものことを伝え、園の様子を知り保育士は子どもについてのたくさんの情報を得ることで、母親と保育士に信頼関係が結ばれます。

**約10日後**…親と離れて過ごすようになる。

・誰とどこで食事をする、眠るのかを知る。 ・自分の棚、マークを知る。

**約2週間後**…一人で過ごす。園の流れに慣れてくる。

② 「流れる日課」…一人一人の生活リズムをもとに、クラスの流れを組み立てていく。

③ 「育児担当制」…食事・排泄・睡眠は同じ保育士が担当する。

※毎日同じ生活の流れで、同じ保育者が育児をすることで、子どもは次に何をするのがわかり、安心して（落ち着いて）生活できるようになります。

## VI、能動性・自立の芽生えを助ける原則

・子どもを励ますこと、すべての表れや表現を認め応援し、要求に応じて助けること。

・子どもに向けられた愛情、受容、共感などは、子どもの能動性と自立への願望を高める。

→初めは生理的欲求（眠い、暑い、お腹が空いた、オムツが汚れた…）を満たしてもらうこと。そして、いつもと同じ安全な部屋で同じ時間に同じ人と同じように過ごせる安心感、大好きな人に抱っこしてほしい、そばにいてほしい、見守らていたいという欲求。

それから、ありのままを受け入れてほしい、一緒に喜んでほしい、できたものを認めてほしいという欲求。これらを満たしてもらった子どもは、やがて自分で何かをしたいという欲求が芽生える。

## VII、大人の一致した教育の原則

園の方針、クラスの担任の方針、目的は一致していなければならない。

私は日々担当の子どもたち「一人ひとりが大切に育てられる」（子どもの人権を尊重した）保育を実現させるべく、子どもの身体的・精神的成長を敏感に感じ取り、その発達に合った環境をつくり、個々あった関わり（援助）ができるよう、保育の質の向上に取り組んでいます。

## 13 育児担当制について

ゆめ組(01歳児)担任 原田優香理

私は保育士1年目です。以前に3年間幼稚園に勤めていた経験と子育ての経験を生かしたいと思い、今年の4月に就職し、0歳児乳児クラスの担任として日々奮闘中です。

恥ずかしながら、保育士とはどういうものか、正直に言って、ちゃんとした答えを持ってないまま、仕事についていました。幼稚園では、遊びや集団活動を通して子どもの発達、成長を促していく事が一番の目的でした。保育園でも、大切な部分はやはり同じなのではないかと、ぼんやりと考えていました。

ある日おやつ時間に、担当児に順番におやつを食べさせていました。その間、眠いのか機嫌が悪くなった子どもがいましたので、補助の保育士に抱っこしてもらい、私はおやつを食べさせていました。担当の子どものおやつが終わった時、抱っこしてもらっていた子は、眠そうにしていたので、そのままその保育士に寝かしつけるのをお願いする形で、私は他の子どもの遊びをみていました。後で、あの時何故抱っこを変わらなかったのかと、その様子を見にきておられた指導の先生に尋ねられました。私は、その子がせっかく寝つこうとしていた様子を見て、そのまま入眠した方が良いだろうと思い、お願いしたのですが、それでは、八木保育園が大事にしている育児担当制が生かされていないということをご指摘頂き、ハッとしました。この0歳児乳児クラスでの私の保育士としての仕事は、育児が大前提であるということ。そして、保育園という所は、家庭で足りない部分を補う所であるということ。つまり、なぜ育児担当制なのかは、ここへ来ているあいだの子ども達に足りないものは、母親である。その母親が入れ替わり立ち替わりであっては、意味をなさない。母親はもちろん一人である。その母親から、育児をしてもらって、子ども達は大きくなる。当り前の事のように、乳児期の子どもにとっては一番大事な部分である。いつも自分を守ってくれる、欲求を満たしてくれる存在、それが母親であろう。その部分を保育園で補うことを考えると、育児担当制は自然な保育である。八木保育園が行っている育児担当制の意味がやっと分かった出来事でした。

その育児の中で、おむつ交換があります。八木保育園でのおむつ交換台は大人が立ったままできるような高い位置にあります。私自身が子育てをしていた時には、1歳になる前の子どもは、すぐ寝返りをうって、おむつを換えるのが大変でテレビをみせながらしたり、上からぶらさがる玩具を置いてしたり、いかに素早くするか神経を費やしていました。ですので初めは、子どもが落ちたら危ないなと思っていました。しかし、その考えは八木保育園が大事にしている保育を考えると無用であることがわかりました。八木保育園ではおむつ交換の時間は子どもと1対1で向き合えるスペシャルな時間であると先輩保育士に教えられました。でも実際には子どもは寝返りしてすぐに立とうとします。向き合えるどころか、じっと寝てくれるようになるにはどうしたらいいのかわからず、悪戦苦闘していました。

そんなとき、「きちんと子どもに『おむつを換える間、待っててね。』と話してやると、子どもも分かるようになるよ」と同じクラスの担任の先生に助言を頂きました。まだ話ができないからしないのではなく、こちらから話かけてやると、子どもはちゃんと、わかっていると。子どもを一人の尊い人格として接していく事が大事であると教えられました。早速、実践していったところ、おむつを換えながら、話しかけていくと一生懸命きいてくれるではないですか！

交換中じっとしてくれると嬉しくて、「待っててくれたね。ありがとう」と抱きしめて感謝の意を伝え、とても温かい時間が流れます。ああ、これがスペシャルな時間なんだと、強く実感しました。高い位置にある交換台は、子どもとの距離が近くなり、保育士も楽な姿勢でおむつを交換でき、スペシャルな時間をより大切にできるよう考えられているものだと知り、更に納得しています。

『乳児保育の実際』（明治図書、ゴダーイ保育研究所著）P.12 に、一保育環境が十分になれば子どもはよく遊ぶ、世話してくれる大人に本当に信頼を寄せる、見てくれる大人がいれば落ち着いていられる、ど

んなに小さくても説明をすれば理解しようとする、クラスの日課に共同するようになる。つまり、自分が尊重されることが感じられれば、子どもは大人と共に賢くあろうとする。そして、安定した落ち着きのある環境では、子ども自身が自分の力をギリギリまで試し発達しようとする…と書かれてあり、育児担当制は“子ども一人ひとりの人格”に向けられるために必要な方法論なのだと述べられています。

この育児担当制を大事に実践し子ども達一人ひとりの人格を尊重しながら、共に伸びていける保育をしていきたいと思

います。



## 14 わらべうた コダーイ・ゾルターン氏と羽仁協子氏の教えを学んで

ひよこ組（01歳児）担任 久保田 美幸

「このここのこかっちゃんこ このここのこ よしこちゃん」1歳になったばかりのよしこちゃんの手をとって唄うと、笑って私を見上げ一緒に体を動かして鼓動をとる。小さくても、鼓動を感じて自分で左右に揺れています。1歳10か月のさとみちゃんは、「いちばちとまった。・・・ はちがきて くまばちがさして ぶんぶんぶん・・・」初めてこの曲をした時、耳をすまし、一瞬止まり、その後、本当に愉快だというように笑いました。「話し始めたさとみちゃんの言葉は、歌っているように聴こえます。」数日後、お母さんが話されました。「子どもにとって言葉は、歌うように聴こえる何かで、歌は、話すように聴こえる何か。」とコダーイは、言いました。私は、さとみちゃんの言葉を聞いてコダーイの言うとおりだと思いました。

まさとくんは、お母さんと離れて過ごす初めての日、（なかよし保育）朝から悲しそうに大きな声で泣いていました。休みが多い月でなかよし保育がうまくいきませんでした。担当の保育士がまさとくんを抱いてわらべうたを歌っています。まさとくんは、なかなか泣き止みません。周りの子ども達は、その泣き声の中で遊んでいます。まるでなみだの嵐の中で、ずぶぬれでこらえて遊んでいるように私には、感じられました。特に長い間、病気で休んでいた1歳7か月ののりこちゃんは、顔をこわばらせていま

す。大人の私でも苦しくなる雰囲気です。(何とかしないと…) 私は、のりこちゃんを抱き「かごかごじ



ゆうろくもん えどからきょうまでさんもんめ ふかいかわにはめよか  
あさいかわへはめよか やっぱりふかいかわへ どぶ〜ん」と歌いました。  
(えへへ…) どこかで誰かが笑いました。雰囲気は、少し和みました。のりこちゃんは、私のお腹にくっつきました。すると手をとって、してほしいという子も来て、その子達にもしました。何度もうたいました。わらべうたで、すべての子を抱きしめている、そういう気持ちでした。しばらく

するとお腹にいたのりこちゃんは、私の懐の中で眠っていました。

私は、保育士になって 30 年。八木保育園に勤めさせていただいて 15 年が経ちました。八木保育園では、たくさんの事を学びました。そして神戸コダーイ芸術教育研究所の依頼で姫路近辺の保育園の先生他教育関係の方にわらべうたを伝えて 10 年になります。試行錯誤しながらの 10 年でした。今年度は、八木保育園の新園舎で行っています。その会で今年は、コダーイ・ゾルターン氏の教えをひも解いてほかの保育士さんと学んでみようかとチャレンジしています。とても難しいですが、少しずつ私にも解ってきたことがあります。

コダーイ氏は、ハンガリーの音楽教育が植民地化の影響で混沌とした時代に「ハンガリーの音と言葉で子どもを育てることこそ大切」と言った方です。その考えの最終目標は、世界平和だそうです。そしてハンガリーの音楽教育を考えぬきコダーイ・コンセプトをつくりました。今、ハンガリーでは、それが国の音楽教育の基本となって進んでいます。世界でも唯一だそうです。日本も同じように西洋の音楽が明治以降に入ってきてそれまでのものは、姿を消し、わらべうたさえもほとんどが消え入りそうな状態です。わたしたち日本の音楽は、どこからきてどこへ行こうとしているのか、わかりにくい状態のように思います。私たちは、どうすればいいのでしょうか？

私は、今、私たちが出来ることは、そういう状況を認識し目の前の子ども達や保護者の皆さんにわらべうたを伝え、実践していくことだと思っています。コダーイは、「母国の音と言葉で子どもを育てること、子ども達の言葉の形成、音、リズムの把握を生き生きと促す。」と言っています。

一方 羽仁協子氏は、コダーイのいるハンガリーに行きその素晴らしさを学び、今の日本にこれが必要だと、帰国しすぐに保育園で実践を始めた方です。羽仁先生は、コダーイが話す以外にこんなことも私たちに教えてくれました。これは、「いっしょに遊ぼうわらべうた 0・1・2」のはじめに書かれています。

「…過去 30 年の広汎な実践の中で、1 対 1 でする遊ばせ遊びが、ほかのどんな方法論にも増して、大人と子どもの対等で深い人間関係作りに果たす役割が確かなものとなったからです。…その中でアメリカの心理学者は、遊ばせ遊びは、一言で母子間の愛の儀式であるとさえ言っています。…皆さんが乳児保育母として発達心理学や心理学を勉強し、科学的法則性にそった育児や遊びを組織し提供することの一番大切な意味は、自分を愛せる子どもを育てることにあると思います。自分を愛せる子ども(あるいは、そういう人格は)情緒的に安定し、円満で、自分でないものや自分とは、違うものをしりぞけなくて、一緒にやっけて行こうとする意欲の強い子になります。…」



わたしは、わらべうたには、大きく、二つの側面があるように思います。それは、コダーイの話す音と言葉の教育という側面ともう一方は、羽仁先生の話される大人と子どもの対等で深い人間関係作りに果たす役割の大きいものであるという側面です。今の日本には、どちらも大切だと思います。特に乳児の遊ばせ遊びには、愛情を伝える、最初の人間関係をつくる力があります。

愛された子どもは、自分を愛することができる。そして愛してくれた人を信じることができるとエリクソンは、いいました。日本の子ども達が深く愛され、自分を愛し、他者を愛せるよう育つこと。日本人としての誇りと喜びを持ってどんな国の人とも対等に関わっていけること。人生の友として音楽が傍らにある。そんな人格を育てることが出来ればどんなに良いでしょう。そしてきっとそのことが世界平和に繋がるのだと思います。

1歳6か月のひとみちゃんがわらべうたをしようと私の手をとってくれました。じっとみつめて・・・「何しようかな？むかえのおさんどんしようか。」・・・「うん」微笑んで静かにうなずいてくれました。今、この曲がみんな大好きです。



わらべうたで子どもを抱きしめる。「あなたは、この世の中でとても大切、生まれてきてくれてありがとう。」わらべうたをする時に見つめ合い、心を込めて一つの曲を子どもにプレゼントします。幾つもの思いを込めて大切にします。(子供の名前は仮名としました。)

## 15 事務職としての2年目

事務員 河知鈴那

私は、八木保育園で昨年度より本園で担任の先生方や給食室の先生方と、事務員として共に仕事をさせてもらっています。

### ●仕事内容

・事務では担任の先生方とは違い、子どもたちと直接的な関係というよりは、職員、保護者の方という間接的な関わりが多いです。電話対応、職員の要望に合わせた書類作成、市に提出する書類作成、計算表の作成 等。

・保育補助では、直接保育に関わらず、保育室にあるおもちゃの製作、破損したおもちゃの修繕、戸外(園庭)の環境整備などを主にしています。

### ●昨年度の悩みから、今年度への思い

昨年、この八木保育園本園で勤務し始めた当初は、事務に関しては今まで勉強してきた知識を活用し、先生方の「これは、こんな風に来るのかな?」「これをこんな風にするやり方って知らない?」という疑問を聞くたびに、知識の中から探してはみるものの、実際に自分で操作してみなければ確信を持たず、先生方の疑問を解決するたびに、自分の事務の内容も幅広くなり、人の疑問から自分の知識の広がりを感じたことに、このような知識の広がり方もあるのだと少し驚いたのを覚えています。

そして、私が保育園の事務員という立場として昨年悩んだことは、事務員だからといって子どもと関わることが決してない訳ではないという点にあったと思います。例えば、少し事務で保育園を出る時、戸外で遊んでいる子どもに出会い、先生方に書類を届けに行く時、室内で遊んでいる子どもに出会い、園庭整備をしていると、夕方遊んでいる子どもに出会います。最初は子ども達との関わり方を自分なりに考え、先生方にアドバイスを伺いながらも悩んだ日がほとんどでした。そのたびに担任の先生方に自ら子ども達の様子をたびたび聞いて、自らも子ども達の様子を目で追っていました。そうしている内に、乳児の日々の成長への喜びや、幼児の遊びの発展や創造への感動、わらべうたと子ども達との密接な繋がり、保護者の方々の子どもたちへの大切な想いを感じ、同じ職員ですが違う職種の保育という仕事の難しさや、それと同等の楽しさを身近に感じる事が出来た昨年度が過ぎ・・・、今年度を迎え新入園児達が入園した時は、昨年私が見てきた落ち着いた雰囲気の中、安心して遊んでいる子ども達姿を思い浮かべ、私も担任の先生方をしっかりサポートし、子ども達に八木保育園の充実した園生活を楽しんで送って貰えるよう先生方と共に考え、知識を重ねていこうと思っています。



#### ● 思いを形にしていこうために

私が子ども達と接している時間は少ないですが、日々の中で毎日、その短い時間の中にも見聞きする子ども達姿や会話を大切に、何か困っている様子であれば、声をかけることをこれからも引き続き、気をつけていこうと思っています。

昨年は、機会があり幼児クラスで午睡前の少しの時間、本の読み聞かせをしていました。今年度に入り時間の都合上、まだ叶っていませんが、また機会があれば挑戦していきたいと思っています。

<b>&lt;参考&gt; 2012年 発行 八木保育園の考え方と実践</b>		2012年7月3日 改訂
未来を創る	清流祐昭	1 保育環境とは・・・? 時間・空間 濱中智華
2 幼児にとって遊びとは	山本英津子	3 異年齢混合保育の3年間 田中綾子
4 異年齢混合保育の魅力	清流綾乃	5 乳児の生活 育児担当制・流れる日課 高井美保子
6 わらべうた	久保田美幸	7 八木保育園の給食について 南 千秋
8 八木保育園に6年間お世話になって	卒園児保護者 浦 篤志	

#### **2013年 発行 八木保育園の考え方と実践2** 2013年10月23日 改訂

1 生きる力をつける5歳児の保育	山本英津子	2 幼児環境認識について	田中綾子
3 ハンガリーのマイバ保育園研修に参加して	環境について学んだこと	濱中智華	
4 ハンガリーのマイバ保育園研修に参加して	身体運動について学んだこと	谷口春菜	
5 乳児保育から幼児保育への連携	松本真菜美	6 育児担当制・流れる日課に出会って	新居由希帆
7 乳児保育 情緒の発達	高井美保子	8 おむつ 布への移行	三木幸子
9 子どもの遊び、発達	斉田朋子	10 新入所 なかよし保育*	久保田美幸
11 乳児保育 補助保育士として	三木照代	12 八木保育園の給食と調理	南千秋・吉岡晶子
13 《再掲載》 八木保育園に6年間お世話になって	卒園児保護者 浦篤志		
14 役割遊びとしての研究誌発行	あとがきに代えて	園長 清流祐昭	

## 16 八木保育園の9年間を振り返って

年長児保護者 牛尾真由美

八木保育園には長男がちょうど1歳になった時から、兄妹で9年間お世話になっています。当時の私は勤務時間も長く、仕事を終え帰宅するのは18、19時にもなっていました。まだ1歳のわが子を後ろ髪をひかれる思いで保育園に預けて仕事をしていたことが思い出されます。こんな状況ですから、先生と顔を合わせて話をする機会も少なく、唯一、園での様子がわかるのは『連絡ノート』でした。その日のできごとはもちろん、時には育児相談にもものっていただきました。決まった担当の先生がいるからこそ、子どもは信頼し、安心して過ごせたのではないのでしょうか？そして、子どもが成長していく姿を一緒によろこび合うことができたのではないかと感じます。その十数冊もある『連絡ノート』は大切な宝物です。

本園での3年間は、年齢の違うお友だちと生活を共にしながら、お互いを認め合い、力をあわせることの楽しみや喜びを味わっているように思います。年少、年中、年長と同じクラスで過ごすなかで最初は年中さん、年長さんに憧れ、真似をしたりとたくさんの刺激を受けたことが、年長さんになるとその役割を果たすようになり、そこに喜びを感じているように思います。同じ屋根の下で育つ兄弟みたいなものですから、時にはお友だちとのぶつかり合いも経験しました。子どもなりに葛藤し、悩み、涙する姿に私も思わずもらい泣きしてしまうこともありましたが、そんな時も「これも成長している証ですよ」と先生方はそっと見守ってくださいました。

子どもの成長について、親は目にみえる「できる・できない」にとらわれてしまいがちです。しかし、先生たちは子どもの小さながんばりにも気づき、それを自信へと導いてくれる、こんなありがたいことはありません。



保育園に子どもを預けるということは、親が安心して働くことだけではなく、子どもにとっては様々な刺激を受けながら、より良い環境の中で成長できることだと思います。

子どもたちはこれから、幾多の困難にぶつかると思いますが、八木保育園での生活や遊びを通して身につけた力で苦難を乗り越え、成長してくれることを期待せずにはられません。

わが子が八木保育園で育てられてよかったと親として感謝しています。

### <編集後記>

職員のレポート集はこれで3年目になりました。新園舎開園を記念して特集を組み、職員・保護者以外に、設計・施工・壁画といった方々にも文章をお願いしました。八木保育園の保育実践を施設建設の面からも立体的に表現できたと思います。巻頭言を引き受けて下さった戸江先生をはじめ、協力して下さった皆様に感謝いたします。

園長 清流祐昭



旧園舎



認定こども園 **八木保育園の考え方と実践3**

2014年 10月 4日 発行

著者 八木保育園保育者集団ほか

編集 清流祐昭（八木保育園園長）

発行 社会福祉法人八木保育園 info@yagi.ed.jp

672-8018 兵庫県姫路市木場前中町 46

079-246-5060 FAX 079-245-9914

研究用資料です。許可無く複写・上映はご遠慮下さい。 Printed in Japan

頒布実費 500円（送料別）

<参考 HP > よい子ネット 八木保育園

<http://himeji.yoiko-net.jp/yoikonet/user/yagi/blog/showDetail.do>

QRコード対応の携帯電話をお持ちの方はこちらをご利用ください。→

